



森のなかま

2024年 10月号

NO. 196 (継続341号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

第21回「やどりき水源林のつどい」が開催されました！！



式典司会

林野庁任命
「'24 ミス日本
みどりの大使」
安藤きらりさん
&
しずくちゃん

8/3 全体プログラム

8:45~10:00 受付
10:00~12:00
水源林トレッキング、
水生生物観察、森林癒やし
12:00~12:20
挨拶、感謝状贈呈式
12:20~13:00 森のコンサート
13:00~14:00 森林交流会等

日時：令和6年8月3日（土） 8:45~14:30 晴れ（準備 8月2日）

場所：松田町やどりき水源林

参加者(午前中、インスト会把握 のべ人数)：成長の森案内 41名、トレッキング 104名、水生観察171名、
森林癒やし65名、合計381名

インストラクター：61名（前日準備 31名）

主催 県民との協働による森林づくり実行委員会

公益財団法人かながわトラストみどり財団、神奈川県、相模原市、神奈川県木材業協同組合連合会、
神奈川県森林協会、神奈川県山林種苗協同組合、神奈川県森林組合連合会、連合神奈川、
株式会社神奈川新聞社、

南足柄緑の少年団、相模原市みどりの少年団、NPO法人かながわ森林インストラクターの会（順不同）

共催 松田町 協賛 神奈川県内広域水道企業団



森のコンサート

弥勒寺祭囃子保存会の皆さんによる演奏♪

みどりの大使と一緒に水源涵養の実験中！





今年も猛暑の中でしたがやどりき水源林のつどいは、水週間の第一土曜日8月3日に開催されました。水源林は、平地に比べると比較的涼しいので県集計参加者361名と多数の方に楽しんで頂きました。午前中は、成長の森見学・トレッキング・水生生物観察・癒やし体験により水源林を楽しんで頂きました。

昼にはみどりの大使司会による式典と森のコンサートを経て、午後には、新機軸の木工クラフト作り(竹灯籠・スワッグ)と恒例の丸太切りなどにより午前とは違う森の楽しみ方を満喫頂きました。今後も一層日々の活動を通してかながわ水源林の森林づくり運動を広めていきたいと思えます。

つどい統括 藤井 敏彦⑭

(写真 水口 俊則⑨、飛田 尚弥⑫、
相澤 恵美利⑮、内田 祐子⑰)

土壌生物調査研修会

日時：2024年7月21日（日） 9：30～14：00 晴れ

場所：やどりき水源林

参加インストラクター：13名

井出①、吉田⑪、上宮田⑪、湯浅⑪、國弘⑭、鈴木⑭、飛田⑮、石垣⑮、久次米⑯、大谷⑰、高谷⑰、野口⑰、内田⑰

主催：やどりき事業部土壌水生班・普及啓発部会 共催

森林は、水源涵養、国土の保全、快適な環境の形成、生物多様性の保全、地球温暖化の防止、そして木材等の生産といった多面にわたる機能を有しています。

しかし、森林の樹木を支え、樹木に水や養分を供給している土壌については、多くの人はあまり関心を持っていなかったように思います。森林が水源涵養機能を持っていることは多くの人が知っていますが、それが森林を支えている土壌のはたらきによるものだと理解している人がどれくらいいるのでしょうか。

また、学校教育に目を向けると、新学習指導要領でSDGsを“持続可能な開発のための教育（ESD）”の中で学習することが明記されており、SDGsと関連させた教育の中に“土壌教育”を位置づけて推進することが必要であるとされています。

土壌は、砂や粘土に土壌生物・微生物が分解した動植物遺体が混ざったものであり、土壌生物のはたらきがなければ土壌は形成されません。

土壌生物に理解と関心を持ってもらうため、土壌水生班ではこれまで、採集手法や観察方法、土地の豊かさを調べる手法を習得することを目的に、土壌生物研修会を行なってきました。また、普及啓発部会では学校の支援要請に基づき、環境教室で土壌生物の観察や土地の豊かさを調べる授業を行ってきました。

そして今回、今までの中でも最多の13名の方に参加していただき、土壌生物調査研修会を行いました。

■調査方法

調査場所：広場横フェンス内、休憩棟奥、（2班に分かれて）

- ① 落とし穴トラップ法：2か所に事前（7/17）に埋めておいた、3種類のエサ別（鶏肉、バナナ、黒蜜）トラップを回収し中の土壌生物調査。
- ② フルイ法：それぞれ場所の土を決められた範囲（50cm×50cm×10cm）で採取し、テーブルに白シートを敷いて、採取した土を少しずつフルイにかけ、落下した土に潜む生き物を見つけ出す。



■結果

指標「土壌生物調査のための簡易検索図」にて自然の豊かさ評価を行いました。「いい環境にいる虫たち」5点、「そこそいい環境にいる虫たち」3点、「悪い環境にもいい環境にもいる虫たち」1点で、見つかった生き物の数で点数を出します。

結果の判定（全部見つければ100点）

調査結果

自然がよく保たれた自然や神社林	60～75点	←全体（61点／昨年67点）
成熟した雑木林（二次林）	55～65点	←休憩棟奥（53点／昨年59点）
若い雑木林や人工林	35～45点	←広場横フェンス内（45点／昨年39点）
公園、人家の庭、校庭	25～35点	
道路の植え込み	15～20点	

■考察

- ・全体（フェンス内と休憩棟奥の生き物を合算）：良好な状態であることが確認できました。
- ・休憩棟奥：成熟した二次林の趣が良く残るエリアであることが確認できました。
- ・広場横フェンス内：20年程前の第1回水源林のつどいで土砂を盛り上げて造成されたエリア。20年たってようやく土壌の生成が見られるようになったように思います。

■解説

学校の環境教室や水源林のつどいでの展示・プレゼン、さらには関連書籍について解説しました。

今後とも、学校関連の環境教室やさらにはネットワーク活動、やどりき水源林のつどい等の活動に役立てていきたいと思っています。

（記 井出 恒夫①、写真 内田 祐子⑰）

シリーズ 『やま』の色々

第4回 生物多様性について考えてみます④

そのための基礎知識

公益社団法人 大日本山林会参与 桜井尚武 氏

生物多様性条約が1992年6月にリオデジャネイロで開かれた環境と開発に関する国連会議（地球サミット）で採択されて、1993年12月に発効しました。この条約で世界規模で生物多様性の保全と持続的活用が具体的なスケジュールに乗って進められることになりました。日本では農林水産大臣が「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的機能の評価について」という諮問を学術会議に行い2001年に同名の答申を得て、林野庁が林業白書に記載したほか施政にもそれを実現すべき活動を盛り込むなどして広く一般に知られるようになりました（図1）。この答申には生物多様性以外にも森林が発揮する多面的機能が8項目に分けて整理されていて、森林の働きを概観するのに便利な教科書です。本答申は環境省のホームページからダウンロードできます（図2）。

[紙 \(sci.go.jp\)](http://sci.go.jp)

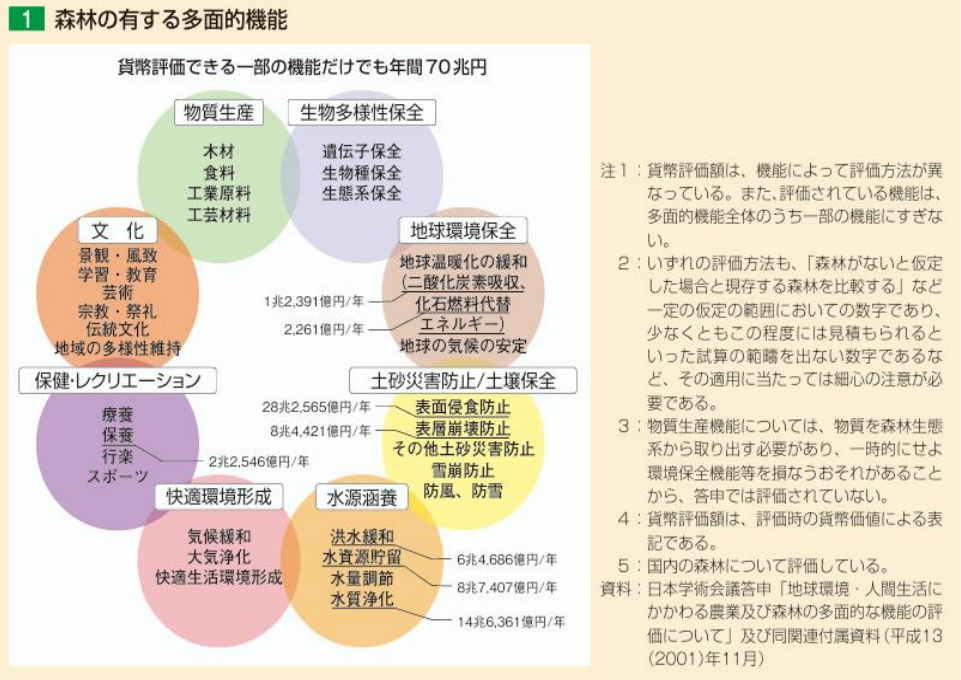


図1 森林の有する多面的機能 令和4(2022)年度森林林業白書参考図表

生物多様性は「種内」「種間」「生態系」の多様性を包含するとされ、種内である遺伝子や種の保存、保全事業は自然状態を対象とするとされています。このことから私は

「生物多様性が確保された生態系とは、
 ①本来あるべき種があって（原植生を構成する種があって）
 ②あるべきでない種がないか少なく（外来種や移入種はないか少なく）、
 ③あるべき種が継続して次世代を残せている状態（世代交代をできていること）、と考えている。そして、その成立する自然環境に適応して、種が自律的に生存を続けている状態。現在では人為の影響排除が大事な要件」と説明してきました。でも、このことは日本では成り立つものの、世界を見ると一般的な見方ではないということに気が付きました。

サンフランシスコでみた外来種のユーカリが大々的に広域でこの街に溶け込んで緑地景観を作り、住民に受け入れられていることに当初は違和感を感じました。でも、この街の置かれた地勢や歴史を知るにつれ、自生種を素にした植生を主役に据えるばかりではない在り方があるという考えになりました。それは、外来種で作られる自然も移植移入された植物種が作る自然も生物多様性条約がいう自然と考えていいのではないかとということです。生物多様性条約はその後さまざまな改変が加えられて、その書き直し書き加えは今でも続いています。その中で、外来種を地域の植生と認めないということが語られている項目は、丁寧には検索していませんが、私には見つけられず、この部分は触れられないオオメニミルの判断事項とされているようです。日本でも最近色々な外来早生樹の活用の動きがあります。街路樹としてすっかりなじんでいるユリノキ（図3）もそのホープと捉えられています。そのうちに里山の造成樹種として根付く日が来るかもしれません。

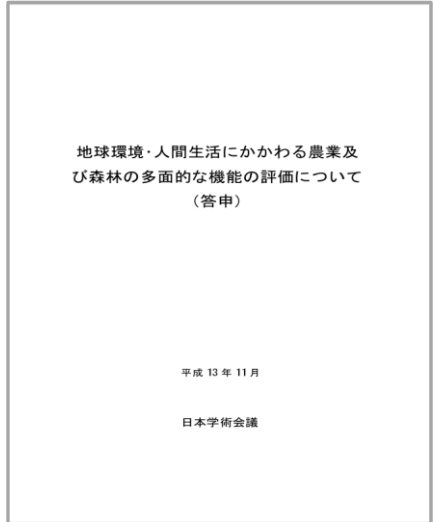


図2 学術会議の答申 この中に森林の多面的機能が収録されています200111

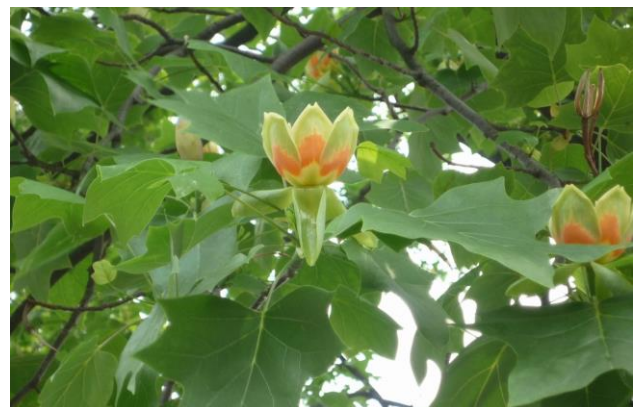


図3 ユリノキ 20120508 東京国立博物館

桜井先生のご執筆内容にご感想やご質問がありましたら 先生のアドレス hayachines@yahoo.co.jp にお送りください！

活動短信

今回の掲載はR6年7月6日からR6年7月27日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

10月(神無月)(旧暦9月長月)の
二十四節気 / 七十二候、鳥こよみ

寒露 10/8 霜降 10/23 / 水始涸(みずはじめてかる)

10/3 田から水を抜き稲刈りに取り掛かるころ。猛暑の影響が気にかかるころです。

鳥こよみ: 秋は渡りの季節。夏鳥が南に去り、冬鳥が到来します。サンコウチョウやオオルリなど「大物」を近所の公園などで見られる(かもしれない)絶好の機会。涼しくなったら双眼鏡片手に散歩してみても如何でしょう?

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です(200字程度で、Word、メール直筆は可、Excelは不可)。写真はなくても構いません(紙面の都合上最大で3枚とします)。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付: 令和x年x月x日(曜日)できれば時間と天気も

場 場所 (例: 相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財 (公財)かながわトラスみどり財団、看 看護師

例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター① (○数字:期) 研:研修枠

以下、本文を400字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名、写真撮影者名=フルネーム+期もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします m()m

◆ ネットワーク活動

令和6年度 緑のレンジャー講座 第3回

日 令和6年7月6日(土) 10:00~12:00 晴れ

場 散在ガ池森林公園

参 大人14名

ス 公財) 鎌倉市公園協会 後藤様、西野様

イ L 國弘⑭、上田⑩、鈴木(秀)⑰

当講座は市内での森の保全活動を希望する方々を対象としており、本日のテーマは「植生を学ぶ。管理上の問題点などを考える。今後実施する枝払い・間伐の選木。」です。散在ガ池森林公園は散在ガ池を有する風致公園で、池を囲む谷戸には散策路が整備されている保健保安林でもあります。散策路を巡回しながら観察と講義を行いました。

1. 植生について学ぶ

鎌倉市の樹林地の特徴であるスダジイ、アラカシ等の高木の常緑広葉樹、イヌビワ、ツクバネウツギ等の亜高木・低木、ヤブコウジ、ケヤブタバコ等の林床植生と、良

好な階層構造を確認しました。日当たりの良い尾根ではカントウカンアオイ、ヤマユリ等を観察しました。クヌギ・コナラ林の植生も観察しました。

2. 公園緑地の管理上の問題点などを考える

① 森林の保全の視点

「鎌倉市みどりの基本計画」では当公園はコリドーである砂押川水系の水源域として水資源涵養機能を保全し、生物多様性を図ることを求めています。森の階層構造を維持し、良好な土壌を形成する必要性を伝えました。

② 景観資源としての散在ガ池の維持

高木の樹形を崩さないことが求められていること伝え、ソメイヨシノのてんぐ巢病の対策等について説明しました。

③ 安全上の視点

ハチなどの危険な生物への対応や枯損木や径路、手すり等の点検について話をしました。

④ 「自然とのふれあい拠点」としての視点

樹名板や園内の説明板等の意義を伝えました。

3. 枝打ち・間伐を行う木を選ぶ

講義を踏まえて、枝打ち・間伐をする木を選びました。

開始時には丁寧にストレッチを行い、巡回時にはこまめに水分補給をしていただきました。内容が盛り沢山でしたが、皆さん熱心に観察し講義を聞いていただきました。(記 國弘 明子⑭、写真 鈴木 秀明⑰)

◆ アコム株式会社様 森林保全活動

アコムの森(神奈川)

日 令和6年7月6日(土) 10:00~12:00 晴れ

場 やどりき水源林

参 26名

県 県水源環境保全課 村松様、秋本様

イ L 森本⑰、松本⑩、野牛⑧、稲野辺⑬

アコム(株)様が神奈川県で進める森林保全活動は、「アコムの森」と称して、間伐や枝打ち作業を定期的に実施しています。今回、アコム(株)様では初作業となる「ツル切り」に、同社従業員26名が参加し、オリエンテーション、神奈川県職員との挨拶、森林インストラクターによる当日の作業内容説明や準備体操を行い、3班に分けて活動開始しました。

初めに神奈川県の水源地やダム機能や役割等の説明を



行い、森林と水源の重要性を説明。その後、ヘルメット、保護メガネ、ノコギリ、剪定ばさみ等の道具を装着し、約40分歩いて、今回の作業場となる「成長の森」の区域へ到着しました。



各班のインストラクターは、成長の森に関する紹介と作業方法をレクチャーしたのち、参加者は植樹木に巻き付いた「ツル」を丁寧に切り外しました。活動前は、鬱蒼と薄暗かった場所に光が入り明るくなりました。



活動後は、参加者のけがや体調の確認と、作業に使用した道具の手入れを実施しました。今回、道中には、たくさんのヤマビルがおり、噛まれた方も多数いましたが重大な怪我もなく無事に活動を終える事ができました。同社は9月28日にも活動が計画されており、森林インストラクターは森林や水源に対する意識啓発に継続して協力していきます。

(記・写真 稲野辺 健一⑬、写真 森本 利弘⑰)

◆ 横浜市永谷小学校 林内整備

- 日 令和6年7月11日(木) 10:30~12:00 晴れ
- 場 宮ヶ瀬湖畔園地内 千年樹植樹地
- 参 大人10名、子供78名、計88名
- 財 古舘様
- イ L 牧石⑭、柏倉④、野牛⑤、徳岡⑪、松本⑪、西出⑫、松石⑬、石垣⑮、岡村⑯、松浦⑰

梅雨空で活動前は小雨でしたが集合時間にはやみました。活動場所の宮ヶ瀬湖畔千年植栽地で小学校と合流したのち、9班に分かれて活動を実施しました。安全目標は「手元注意」。鋸に不慣れな子供が多く



特に注意しました。内容は林内整備で、倒木や枯木の整理と草刈りを行いました。社会科で「森林とわたしたちの暮らし」を学習し、そのまとめとしての位置づけです。蒸

暑い中でしたが、適度に水分補給をし、ケガをする子供もなく(ヒルの被害はありましたが)それぞれ森林と自分たちの関わりを考える良い機会となったようでした。



倒木処理の丸太切りが特に人気があり夢中になり鋸を引いていました。作業終了後は各インストラクターが工夫を凝らして、子供たちの興味の湧く「森林とわたしたちの暮らし」に関するミニ講話を実施しました。閉会式での子供達の感想は「楽しかった」「いつもと違う体験ができた」「木を切るのが難しかった」など明るい声を聞くことができました。

(記 松浦 正⑩、写真 牧石 稔⑭)

◆ 第4回 県民参加の森林づくり

山北町都夫良野「下刈り」、ボランティア交流会(山北町丸山地区整備隊、NPO法人 共和のもり) *任意参加

- 日 令和6年7月13日(土) 9:30~12:30 晴れ時々曇り
- 場 山北町都夫良野(共和財産区有林)
- 参 55名
- 財 豊丸様 南橋様 藤本様 実方様
- ス 山北町森林組合様、山北町農林課様 主査中村様
- イ L 三浦⑰、江上③、上宮田⑪、石川⑫、渡辺⑫、齋藤⑬、岩田⑭、野村⑭、石垣⑮、岡村⑯、小林⑯、内田⑰、小野寺⑰、森本⑰、田島⑰、文原⑰

愛媛県松山城の近くで未明に発生した土砂崩れが、家屋を倒壊させることとなった梅雨前線が関東に近づき、前日は夜遅くまで雨が降り続く天気であったが、予定通り実施となった。

朝には雲の切れ間から青空が垣間見える陽気で安心した。前日の雨で67名の参加予定から若干少なくなったが、予定通り9:10には班ごとに5台のマイクロバスに分乗し出発、約30分で大野山の作業場に到着した。広場でのオリエンテーションでインストラクター紹介や作業の注意点などを説明後、10:30には作業が開始された。



我々、3班の作業地の入口は植樹木が3m以上伸びた雑木林であり、事前に作っていただいた踏み分け道を頼りに生い茂った草の中を、背を低くして潜りながら進んだところの作業エリアは、隣の人が見えない程のブッシュだったが、作業が終わるころには全容がはっきりわかるまでに変貌した。植林されたコナラの周りには動物から

保護するハイトシェルターが設置されていたが、倒れたり壊れたりしていたので、その整備も行った。樹木を覆うツルの排除に手間取り3割以上の下刈り残しが生じた。15分毎に給水タイムを設け、山作業が初めての方やお子様の横に付いて指導を行った事もあり怪我した人はいなかった。



雨続きだった為、ヤマビルにやられた方がだいぶいたが、体調不良者も無く予定通り12:00に作業を終えバスに乗り、ヤマユリを見ながら役場に到着。役場より配布された無料券を利用し「さくら湯」に入浴し帰路につかれた。

13:30 ボランティア交流会参加者は生涯学習センターに集合した。山北で活動されている山北町丸山地区整備隊の瀧澤様の発表では、2009年から2019年までやどりき水源林の整備をされていたとのことでした。NPO法人共和のもりの岩元様からは、県立山北つぶらの公園の一部を業務委託で活動されている様子が報告され、予定通りの時刻に無事終了となった。

(記・写真 小林 照夫⑯)

◆ 平塚市立大原小学校

環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～

「木がためこんでいる二酸化炭素の量を測ろう」

日 令和6年7月16日(火) 10:00～12:00、曇り

場 平塚市立大原小学校(校庭、教室)

参 6年生(特支含む) 39名、教師2名

イ L 井出①、谷川⑩、石垣⑮、小国⑰

◎普通学級

(目的) 木の太さを測ることで、木が1年間に貯めこんでいる二酸化炭素の量を割り出し、木の基本的な役割である二酸化炭素の吸収と蓄積を体験的に学ぶ。

<授業内容>

①教室で授業内容、調査方法について説明を行い。

②校庭に出て、樹木の太さを測定し、教室に戻り、樹木の太さから導かれる二酸化炭素の年間吸収量を調査表に記入した。

③測定した個々の樹木の吸収量をパソコンに入力し、学校林の二酸化炭素吸収量を算出。これと車や人が吐き出す二酸化炭素排出量と比較し、いかに樹木が多くの二酸化炭素を吸収しているかを気付かせた。

④パワーポイントで光合成や森林の役割について解説を行った。一方通行でなく双方向のやりとりで、活発な授



業を行うことができた。

◎特別支援学級(講師(谷川⑩)を別途配置し、普通学級とは別に授業を行った)

人や動物が呼吸をし

たり、ものが燃えると二酸化炭素が生じることを観察実験で確かめた。また樹木が二酸化炭素を吸収し、酸素を排出することを学習した後、ウメやミカン、サクラの木などが一年間にどれくらいの二酸化炭素を供給しているかを調べた。

(記・写真 井出 恒夫①)



◆ 水源事業PR(生命の星・地球博物館会場)

日 令和6年7月13日(土)、14日(日)、15日(月・祝)の3日間

場 生命の星・地球博物館1F 西講義室

参 551名(7/13:172、7/14:211、7/15:168)

イ 7/13:星様、7/14:山田様、7/15村松GL様・星様

7/13(土):L森本⑤、安部⑤、山崎⑦、草野⑧、

飛田⑮、小国⑰;7/14(日):L森本⑤、安部⑤、

山崎⑦、草野⑧、内野⑨、小国⑰;7/15(月・祝):

L森本⑤、牛島①、安部⑤、山崎⑦、草野⑧、小国⑰ /計18名

通算で7回目となる「水源の森林づくり」PR事業。過去、県民センターで5回、昨年からは当地での開催に変更。大変に人気のある施設だが、講義室内の会場設定でもあり集客方法に工夫を。そこで、(鳴り物効果が期待出来る)葉巻笛と(夏場での子ども向けの)シュロバッタづくりを採用。今回は、地球博物館側でも協力(葉っぱのポスター調製、館内アナウンス)をしていただき、良いPRになったものと思う。(記 森本 正信⑤)

◆ NGKフィルテック様 森林活動

日 令和6年7月20日(土) 9:30～12:45 晴れ

場 やどりき水源林

参 29名(大人19名 子供10名)

イ L内田⑰、古舘⑬、石垣⑮、高谷⑰、野口⑰

梅雨明けの声と共に晴れ渡る空の下、社員・ご家族の皆さまが集いました。お子さまも多く、元気な声が響きます。

今回は夏にふさわしい「水生生物観察」と「溪流散



策」の2つのプログラムでの進行です。

「水生生物観察」に参加のご家族は、インストラクターから採集方法の説明を受け、各自網を持ち河原へ降りました。ライフジャケットを付け、川の流れに入った子供たちは、生き生きとした動きと表情で網を使って採集を行い、バケツに入れていきます。広場に戻りバットに移した後も、お互いの頭がぶつかりそうになるくらい熱心に観察し、説明用の写真と見比べながら名前を調べていました。



「溪流散策」に参加の皆さまは、人工の堰堤（小さな滝）まで遡上するコースです。最初はくるぶしくらいの水量でしたが、次第に深くなり膝まで浸かりながらジャブジャブと進み流れを渡ります。よじ登り超えるほどの大岩や頭上に迫る枝をくぐり抜け、やっと堰堤に到着！「思ったよりハードでした。でも日頃のデスクワークとは異次元の自然を体感できて大満足です。また来たいです！」との感想も出て、滝の飛沫を浴び、皆さま爽やかな笑顔で水源林の夏を満喫のご様子でした。



(記 石垣 桃栄⑮、写真 内田 祐子⑰ 水生観察、石垣 桃栄⑮ 溪流散策)

◆ 第5回 県民参加の森林づくり (下刈り)

日 令和6年7月27日(土)9:30~12:10 晴れ

場 秦野市千村(頭高山)

参 35名

財 藤本様・南橋様 看 青木様

ス 神奈川県森林組合連合会

千村共有地管理組合/頭高山愛する会

イ L 高谷⑰、柏倉④、水野⑭、湯浅⑩、永田⑯、

西出⑫、小国⑰、鈴木⑭、中鉢⑰、大見⑮、藤田⑰

朝から蒸し暑く30℃近い暑さの中、秦野駅南口で参加者の受付を始めたが、参加者の集まり具合が芳しくなく、結果的には51名の参加予定に対して35名の参加(1

グループ10名→7名)となった。当日は猛暑日となることが予想されたため、参加を見合わせた方が多かったものと思われる。

3台のバスに分乗し移動、バス降車後オリエンテーション場所まで20分近く登り、更に現場まで10分程度登り、現場に着くまで蒸し暑さのため十分な汗をかく状態だった。

現場の状態は、特に3、4班、5班は背丈以上まで伸びた雑草や雑木で覆われ植栽木はほとんど見えない状態であった。5班は更に急斜面で、4班は雑草の中に古丸太が放置され、また大ガマで刈れないような雑木がある状態で大変な作業になると思われた。



各班、配給された塩飴を舂め、作業開始したが無風で蒸し暑さのため直ぐに汗びっしょりとなり、20~30分毎に日陰で小休止、水分補給をこまめに取りながら、11時45分頃まで「全刈り」および植栽木の保護ネットに絡まったツルの除去を終了した。作業中、ヤマビル被害2件、ハチ刺され1件あったが共に現場で青木看護師の素早い応急処置をしていただいた他は、重度な熱中症やケガもなく無事作業を終えることができた。

作業の閉会式後、昼食時に「千村共有管理組合/頭高山愛する会」の方々にかき氷を提供していただき、疲れ切った体、乾ききった体にかき氷の冷たさが凍みわたり、元気が一気に回復した。更にお代わりもでき、嬉しさ2倍、かき氷を準備してくださった方々に感謝感激だった。



秦野市の当日の最高気温は35℃だったが、このような状態、参加者の重度な熱中症もケガもなく、現場の「全刈り」を完了できたのは良かった。参加者の

多くも疲れ切ってはいたが、刈り上がった状態を見て満足感はあったようだった。また帰りのバスで移動中、雨が降り出したが作業中ではなかったため、皆ほっとして帰宅の途に就いたようだった。

(記 中鉢 実則⑰、写真 トラスト藤本様)

◆ 株式会社アルバック様 森林再生プロジェクト ツル切り作業、水生生物観察

日 令和6年7月27日(土) 9:30~12:00 快晴
 場 やどりき水源林
 参 34名(大人24名、子ども10名)
 県 水源環境保全課 藤原様、野口様
 イ L田島⑭、松本⑪、上宮田⑪、牧石⑭、石垣⑮、大谷⑰、三浦⑰

6月に「21世紀の森」で実施した竹伐とクラフトに続き今回は「ツル切り」と「水生生物観察」活動を行いました。

それぞれ3班ずつに分かれ、ツル切り班は倉庫前で鋸等身支度を整えて「成長の森19-8区域」へと登ります。入り口付近は土砂崩れがあり危険なため遠回りし現場に到着。斜面での足場確保に苦労しつつ皆さま汗だくになりながらツルを切り払い、無事作業を終えました。



水生生物観察班は親子でのご参加が多く採取方法の説明を受けた後、子供たちはライフジャケットを装着し網を手に広場前の川で採取しました。オタマジャクシ発見に喜ぶ声があがり他の生物も次々バケツへ入れ、それを持ち帰りバットに移して動きの速さや体をじっくり観察



しました。「水の中にこんなにかくさん生き物が居るって知らなかった」の感想や、木伝導で水音を聴き「あ、ポコポコいってる!」「綺麗な

音!」と一瞬にして驚きへと変わる表情がとても印象的でした。

今回のツル切り作業や川での体験を通して皆さまに水源林の奥深さを感じ、お楽しみいただけたことと思います。



(記 石垣 桃栄⑮、写真 三浦 由香子⑰)

◆ プレス工業株式会社様 2024年 水源林保全活動

日 令和6年5月24日(金) 10:00~12:00 曇り
 場 県立21世紀の森(南足柄市内山)
 参 5名(大人5名)
 県 神奈川県水源環境保全課 星主事、秋本臨時主事
 イ L岡村⑯、野牛⑰

初めての森林保全活動に臨みやや緊張気味であったが、活動を進めていくうちに力みがなくなってきました。活動は成長の森“平成30年”に植栽スギの下草を大鎌で刈る作業でした。活動前に成長の森のなりたち及び目的の説明等を行い、大事な杉の育成に必要な作業を理解していただきました。



作業は斜面上で体の保持及び草を刈るときに鎌に加える力等で思

った以上に重労働でした。途中休憩を設け一息入れて作業を行いました。結果、杉の木が草むらからすっきり姿を見せるようになりました。その後、狭いエリア(成長の森表示板設置場所)を、片手鎌で草束を手で握って丁寧



に刈っていきました。その結果、表示板の支持柱の周りなど細かな箇所が整理され、林道から表示板を含めた

成長の森全体を眺めるとスッキリしているのがわかるようになりました。

下草刈り終了後、気分転換を図るために、簡易なクラフトである鉛筆などを作成し、全

作業を終了しました。

怪我も無く、初めての体験を楽しんでいただけたと思います。

(記 岡村 寛⑯ 写真はプレス工業様から提供)

*本記事の掲載が遅くなりましたこと、お詫び申し上げます。



**人も自然も
いきいき 丹沢**

丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生
委員会の ホームページをご覧ください。
<http://www.tanzawasaisei.jp/>

やどりき水源林ミニガイド

「やどりき森の案内人」

毎週土曜・日曜の午前10時と午後1時から「NPO法人かながわ森林インストラクターの会」会員が水源林をご案内します。やどりき水源林ゲート前までお越しください。

「やどりき水源林ニュース」

9月号は「初秋のやどりき水源林へ」です！



森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当：森本 利弘)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。原稿は随時受付けています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

河西 静夫
skasai0618@gmail.com

<電子配信会員向け担当>

小池 宗子
muneko-sakura@outlook.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】河西 静夫
skasai0618@gmail.com
黒川 敏史
kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小国 一男
ka-oguni@ab.auone-net.jp
河西 静夫
skasai0618@gmail.com

◇ 編集後記 ◇

★ 9/20に家から大和市へ行く途中にお寺の脇道に老夫婦の奥さんが壁際にへたり込んでいました。旦那さんは携帯をかけながらタオルで奥さんの首をふいていました。見るとズボン膝あたりは破け、おデコの擦傷が、どうも奥さんが熱中症で転んだようです。見過ごす事は出来ないで、そばに行き見たらやはり熱中症のようでした。救急車は呼んだそうなので、焦らず深呼吸をさせ、他の人に協力を呼びかけ庫裡行ってお寺さんにも協力や冷やすものをお願いし、応急処置(頸動脈等を冷やす)を行ってから、間もなく救急車がきたので自分の目的の所用を済ませ(35分くらい)家に戻りかけた後、未だ救急車がいました。先ほどの協力者に声をかけられ、未だ搬送病院が見つからないそうでした。そのくらい熱中症の多さを実感しました。(松本)

★ 9月22日は秋分の日で祖先を敬い亡くなった人をしのぶ日ですが、今年は特に「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉が重くのしかかります。異常気象で9月下旬になるとなるのにまだ厳しい暑さが続いている。日本古来からの暦は異常気象も追いやる力を持っているのだろうか山々は急に秋の様相を呈し、ソワソワ山に登りたくなって来る。能登の豪雨で再び大きな災害に見舞われている。つい先日災害義援金をお渡ししたばかりなのに、運の神様は見放してしまわれたのだろうかと考えてしまう。少し落ち着いたら石川の山を縦走して能登の方々と自然に敬意と感謝を祈ってきたいと思う。(小林)

★ これを書いているのは秋分の日。明日から涼しくなり猛暑と豪雨に翻弄された夏が去るようです(たぶん)。この場をお借りして能登の被災地の皆様へ心よりお見舞いを申し上げます。(河西)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

かながわすくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。



https://twitter.com/kanagawa_sizuku



やどりき水源林問合せ：(公財)かながわトラストみどり財団

TEL：045-412-2255 / FAX：045-412-2300
<https://ktm.or.jp/> Mail: midori@ktm.or.jp

かながわ森林インストラクターの会

<https://www.forest-kanagawa.jp/> Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人：河西 静夫
広報部：黒川 敏史、松本 保、
笠原 かずみ、長尾 晴子、
小林 照夫、小国 一男、
小池 宗子
支援：大原 正志、吉田 郁夫

2024年度 森林探訪

主催：認定 NPO 法人 かながわ森林インストラクターの会

自然に親しみながら、森林を中心とした自然に対する理解を深めていただく、
森林インストラクターが案内する自然観察会です。

第2回 日向薬師から日向山・七沢温泉へ



共催：丹沢大山自然再生委員会

行基が開山したという日向薬師と、周囲の寺林から
続く木もれ日の中の道を歩きます。

開催日：2024年11月30日(土)

申込締切：11月22日

集合：小田急伊勢原駅改札前 8:30 集合

解散：七沢温泉入口バス停 15:30 頃

コース：伊勢原駅北口バス停→日向薬師バス停(🚏)→日向薬師(🏯)→日向山山頂→亀石
→七沢温泉→七沢温泉入口バス停(🚏)(解散) バスで本厚木駅へ 高低差：330m

第3回 冬の多摩丘陵 黒川谷ツ公園・よこやまの道を歩く



多摩丘陵に広がる雑木林、湿地、里山を巡り、防人の
時代に思いをはせるコースです。

陽だまりで一足早い春を探してみましよう。

開催日：2025年1月26日(日)

申込締切：1月18日

集合：小田急多摩線はるひ野駅北口 10:00

解散：黒川駅 15:00 頃

コース：はるひ野駅(🚏)→黒川谷ツ公園→はるひ野駅(🚏)→よこやまの道→黒川駅(🚏)
高低差：100m

各イベントともに、

定員：50名(申込順) 参加費：1,500円(当日徴収)

持ち物：昼食、飲み物、雨具、シート、ハイキングのできる服装

<申し込み>：認定 NPO 法人 かながわ森林インストラクターの会 自然観察部会

1) QRコードで

2) e-mail：kanagawa_shizenkansatu@yahoo.co.jp へ

3) 〒243-0018 厚木市中町 2-13-14 サンシャインビル 604 へ往復はがきで

森林探訪名、参加者全員の氏名・年齢・電話番号・住所を記載してください。

お問い合わせ：TEL 080-8712-3804 担当 西岡

